

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）

～2040年に向けた「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」～を踏まえた
高校教育改革実行計画の策定について

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）

～2040年に向けた「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」～ <令和8年2月策定>

背景

少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化、
職種により余剰や不足が生じる労働力需給ギャップ、
産業界のニーズに応じた理系人材の不足

（富山県の状況） 中学校卒業予定者数は2025年→2040年で**約4割減少**
労働人口は、2040年予測で**10.3万人の不足**（本県の労働需給シミュレーション）
高卒（工業科）1.0万人不足、大卒理系1.3万人不足 など（2040年の就業構造統計[経済産業省] 等

将来の予測が難しく、

AIが様々な情報を処理する時代では、

多様な個性や能力を生かして、

「自ら問いを立てる力」

「他者とともに価値を創り出す力」を

身に付けられる教育に転換することが必要

生徒それぞれの多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした
自己実現を支え、生徒の可能性を広げ能力を伸ばす

<視点1> 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、
AIに代替されない能力や個性の伸長

<視点2> 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

<視点3> 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

3つの視点を
重視した
更なる高校改革

高校から大学・
大学院に至るまで
の一貫した改革で、
強い経済や地域社会の
基盤となる人材を育成

グランドデザイン／2040年に向けた「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」とは

＜視点1＞不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

- ・ AIに代替されない力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、他者と協働する力など）の育成
- ・ AIを活用して新たな価値を生み出す素地を身に付ける
- ・ 情報を受動的に覚えるだけではなく、生徒が学ぶことの意義を実感しながら探究的・実践的に学びを進める学習観への転換

＜視点2＞我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

- ・ AI等によって社会全体が大きく変わり、従来の進路選択の見方が必ずしも今後妥当するものではなくなりつつあるという危機意識を社会全体で共有
- ・ 生徒本人だけではなく、生徒の進路選択に大きな影響を与える保護者や学校関係者の意識変革を促していく必要
- ・ 高校改革や各高校の取組みを、中学生やその保護者、中学校の関係者に対して広く共有

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- ・ 少子化が加速する地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- ・ 不登校児童生徒、特別な教育的支援や日本語指導が必要な児童生徒の増加、通信制課程在籍者の大幅増加の状況を鑑みた、柔軟で質の高い学びの選択肢の保障

グランドデザイン／2040年に向けた「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」とは

都道府県

グランドデザインを踏まえ、

高校教育改革実行計画 を策定
R⑧年度中

国

計画を着実に実現できるよう、安定財源を確保した上で、
高等学校教育改革交付金（仮称）等の
新たな財政支援の仕組みを構築（R⑨～予算編成過程で検討）

計画策定に当たっては、公立高校を所管する都道府県教育委員会が中心となることが想定されるが、知事や関係部局、大学、地域の関係者や産業界と十分に連携・協働することが必要不可欠

都道府県として目指すこれからの高校教育の在り方や国の支援を受けて推進する取組などについて、総合教育会議や地方産業教育審議会等を活用し、高校生の声を含む幅広い意見、地域別就業構造の推計、人口の将来推計などを踏まえて検討することが必要

主として公立の高校等の取組を記載することを想定しているが、私立の果たす役割や実態を踏まえ、都道府県の判断により、私立の取組を記載することが考えられる

計画の具体的運用は、地域構想推進プラットフォーム※1やコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）※2などを活用することが想定される

※1 地域の人材需給等を踏まえた高等教育機関における人材育成のあり方などについて、地域内の高等教育機関の長と地方公共団体の首長をはじめとした産学官金等の関係者が主体的かつ継続的に議論を行う協議体

※2 法に基づき、教育委員会が学校に設置（努力義務）
校長が作成する学校運営の基本方針を承認する、学校運営や教職員の任用に関して、意見を述べるなど、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組む制度

新しい学校のイメージ・中核となる3つの施策

視点1

不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

視点2

我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

視点3

一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

① **専門高校の機能強化・高度化**
(アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成など)

② **普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化**
(文理の双方の素養を有する人材の育成など)

③ **地理的アクセス・多様な学びの確保**

※①～③の取組みの一環としての留学支援等グローバル人材の育成支援、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援

①**専門高校の機能強化・高度化**
(アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成など)

AIやデジタル技術を駆使しながら、地域産業や社会の課題を解決できる人材、地域発のイノベーションを興すことのできる人材、進学を見据えた高度専門職人材を育成

産業界や大学等と連携・協働しながら、理論と実践の往還により、実践力の習得・向上に資するカリキュラム
その実現に必要な施設設備の高度化

＜取り組み例＞

ビジネス経験の必修化	定期的な企業等での業務経験・・・仕事や収入のイメージの明確化、高校での理論学習と企業等での実践の行き来による学びの進化
ものづくりから流通までの 一体的な学び の実践	原材料の生産や栽培管理、製品・商品の製造、流通・販売など全ての工程を高校で実施、農業（原材料生産）の観点と商業（マーケティング）の観点など、学科を超える分野の学びを踏まえた取り組み
「 高校版企業寄附講座 」等の実践やそれを前提とした 進学・就職機会の確保	地域の強みを生かすことのできる分野について、より高度で実践的な内容を学ぶ学校設定科目等を開設（新たな学科・コースを設置） 卒業後の進路（進学・就職等）も意識した取り組みと連動

② 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
(文理の双方の素養を有する人材の育成など)

AIやデジタル技術を駆使しながら、文理の区分にとらわれない幅広い教養と科学的思考力を備えた新しい価値を創造する人材、問題解決や探究活動を通じた理数の学びをこれからの経済・社会の発展につなぐことのできる人材、問題発見・解決能力を備えたグローバル人材の育成

産業界や大学等と連携・協働しながら、実社会につながる生きた授業の実践、文理横断的な学びを支える充実した施設設備の高度化

<取り組み例>

実社会につながる生きた授業の実践	理数系教育に重点を置いたカリキュラム編成、多様な視点からアプローチする文理横断型の授業の展開、地域社会の課題や魅力に着目した探究活動
高度実験環境を核とする理数探究拠点整備	生徒の興味・関心に応じた主体的な探究活動を進めるための理科実験室・「DXラボ」の高度な実験機器・情報機器を授業の内外で活用、外部人材等の支援員による継続的な指導・支援 他校の生徒や中学生への利用機会提供、高度な機器環境を生かした教員研修
探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築	課題設定、仮説立案、観察・実験による検証、考察や成果発表に至る探究プロセスを一貫して指導できる力の育成・向上 理数担当の教師を中心に他教科担当の教師や支援員が連携・協働し探究活動を伴走支援する専門チームの構築

③地理的アクセス・多様な学びの確保

自身の興味・関心等に応じた学びや探究活動により、自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる人材や、デジタル技術を活用し学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材の育成

産業界や大学等と連携・協働しながら、柔軟で質の高い学びの実践、全ての生徒のニーズや学びを支える充実した施設設備の高度化

＜取り組み例＞

学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保

中山間地域等の学校、学習進度・学習理解の程度が大きく異なる生徒や不登校生徒など多様な生徒への対応のための学校間連携やデジタル技術の活用による遠隔授業の充実・強化
オーダーメイドの時間割での多様な学習ニーズへの対応、全日制・定時制・通信制の垣根を超えた柔軟な教育課程

学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供

場所・家庭環境、不登校経験等、多様な背景等にかかわらず、心理的にも安心して必要な学習を行えるようデジタル技術の活用
産業・福祉部局や、医療・福祉施設、産業界等からの専門人材派遣など連携・協働による一人一人の生徒の状況に応じた学習環境の提供

他の学校種との連携の充実

小中学校・特別支援学校等、他の学校種と連携
学校種の垣根を超えた教職員研修や相互理解のための機会の設置

2040 年までに達成を目指す目標

○職業教育の高度化・魅力の強化関係

- ・ 100%の専門高校で、卒業後の進路（進学・就職等）も見据えた実践的な学びを、地域の産業界や大学等と連携・協働し、年間を通じて実施
- ・ 少子化傾向においても、専門高校の生徒数が現在と同水準

○普通科の在り方の転換・魅力の強化関係

- ・ 100%の普通科高校で文理横断的な学びに取り組む
- ・ 普通科高校の生徒のうち、文系と理系の生徒の割合が同程度

○多様な学びの確保関係

- ・ 学びの状況等への肯定的な評価割合の向上
- ・ 高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

(参考)

高校改革の 先導拠点の 創出

高等学校教育改革促進基金の創設 ～N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール※構想～

令和7年度補正予算額

2,955億円



文部科学省

※N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定） 抜粋

第2章「強い日本経済実現」に向けた具体的施策 第1節 生活の安全保障・物価高への対応（6）公教育の再生・教育無償化への対応（教育無償化への対応）

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から2025年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン2040（仮称）」に沿った**緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。**

課題

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念**されるところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要。**
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化（2040年には高校1年生が約36%減少）。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要。**

①産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業

令和7年度補正予算額 2,950億円 支援期間：3年程度

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた
高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及する。

事業内容

改革先導校の類型

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等 育成支援

- ❑ 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- ❑ 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- ❑ 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- ❑ 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した 教育機会の確保

- ❑ 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要。**
- ❑ 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

取組 内容例

- 学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されることなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。
- ・ 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
 - ・ 域内の教育環境向上に貢献する取組（遠隔授業、教員研修拠点等）
 - ・ 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
 - ・ グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

②高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業

令和7年度補正予算額 5億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

対象

- ①都道府県
- ②民間

補助率 等

- ①10分の10

補助 対象経費

- ①改革先導拠点の創出に係る経費（人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等）
- ②高校教育改革加速に係る伴走経費（人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等）

事業スキーム

文部科学省

基金造成経費を交付

都道府県

※都道府県事務費も措置

(出典)
文部科学省

(担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付) 10

高校改革の先導拠点の創出

高等学校教育改革促進事業費補助金
(国R⑦補正 2,950億円)



高校教育改革のための基金を各都道府県に造成

国公募事業「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」 事業期間R⑧～⑩

N-E.X.Tハイスクール構想実現のために、パイロットケースとして
先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創出

<類型 1> アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

〔 ※ 8 月追加申請予定
富山商業高校、高岡工業高校 〕

<類型 2> 理数系人材育成支援

魚津高校

<類型 3> 多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

小杉高校

} 5/15採択済

- 理数的素養を持つ人材育成に向け、普通科高校における教育課程・指導体制の見直しが求められている。
- 探究活動を核とした文理融合型の教育を実現するための、物的・人的環境の整備及び外部連携体制の構築が必要。
 - ➡ 理数的素養を備えた人材を輩出できるよう、「3年次からの文理分けを前提としたカリキュラムの開発」、「文理融合型の探究活動の推進」などにより、理数系重視の入口から出口までの一体改革による質的転換で、理数系人材の裾野を広げ高みを目指す普通科高校のパイロットケースの創出・普及に取り組む

人材育成の現状・課題

○ 医薬・バイオや半導体関連などの県基幹産業との接続強化
○ 将来を見据えた文理選択により社会が求める「文理融合型」人材の育成

○ 理系学部に進学し、高度な専門知識を習得した理系人材の育成
○ 理数的素養を持つ人材育成のための教育課程・指導体制の再構築

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】

- ① 大学理系学部進学者割合 R⑦ 49.3% R⑩ 55% R⑬ 65%
- ② 「科学技術に対する肯定感・効力感を感じている」生徒割合
R⑩ +10pt R⑬ +20pt (R⑧調査比)

【取組内容・創出するパイロットケース】

(教育改革の内容)

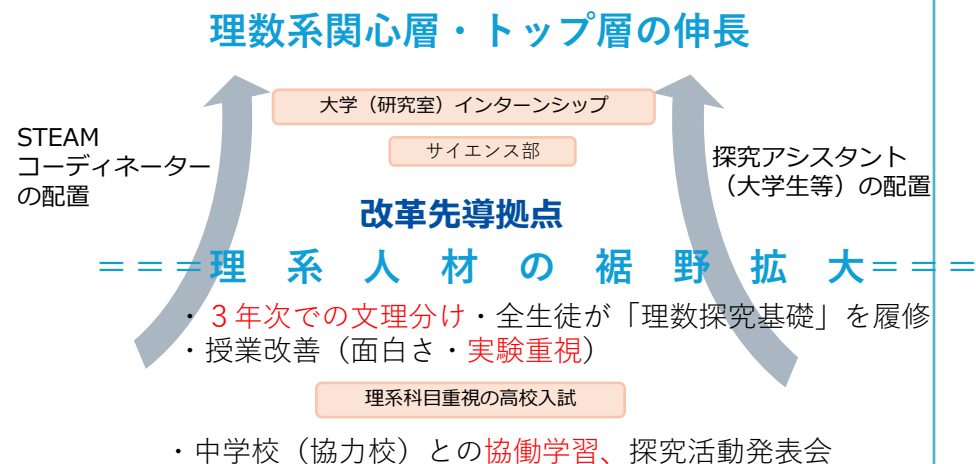
- ・ フェーズ1：全生徒の理系的資質の開発のためのカリキュラム・マネジメント
- ・ フェーズ2：理系分野に対する興味・関心が高い生徒に向けた取組の強化
⇒ 理数系人材の裾野拡大、更なる理数系資質の開発

(施設・設備の整備)

- ・ 探究棟の整備、普通教室の改修
- ・ 「バイオ・環境ラボ」、「探究ルーム」、問いを立てる場所としての図書館
⇒ 文理融合型探究活動を核とした学びの質的転換

【他校への普及方策】

- ・ 授業・講義・教員研修の他校への公開
- ・ 協力校等との協働学習や生徒主体の成果発表会



実施体制

協力校	魚津市立東部中学校、魚津市立西部中学校
主な連携機関 等	富山大学、富山県立大学、関係自治体、関係事業者団体等

目指す成果

- 地域・産業界が求める理数的素養を持つ人材を輩出
- 文理融合の思考力を持つ人材を育成
- 県全体の進学指導の質的転換
- 理数系重視モデルの県内他校への普及
- 産学官連携の高校探究教育モデル創出

- 生徒一人ひとりの**強み・関心の発見・伸長**や、主体的な進路形成につながる**柔軟な教育課程**の整備が求められている。
- 不登校傾向の生徒や特別な支援を要する生徒、外国人生徒など**多様な背景を持つ生徒への支援体制**が未整備。
 - ➡ **多様な背景を持つ生徒の主体的な学びの実現のため、「柔軟な教育課程の整備による余白時間の創出と自主活動の促進」、**
「多層的な 支援体制の構築」などにより、柔軟な教育課程と学校外のリソースを活用し、ウェルビーイングな学びの場を創出する高校の
パイロットケースの創出・普及に取り組む。

人材育成の現状・課題

- 急増する外国人生徒や特別な支援を要する生徒への支援体制が未整備
- 県立高校における個別最適な学びの提供が不十分
- カリキュラム・オーバーロードを变革し、生徒の余白を確保

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】

①進路に満足している生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%

②「自主活動：ミラパス」の時間の学びが充実していると感じる生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%

【取組内容・創出するパイロットケース】

(教育改革の内容)

- ・ **教育課程の柔軟化**と「**余白の時間**」による自主活動の促進
- ・ AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進

⇒ **ウェルビーイングな学びの場**を創出

(施設・設備の整備)

- ・ 次世代ラーニング・ハブ「**ココ・テラス (COCO Terrace)**」の整備

⇒ **外部専門人材**を活用した**多様な学びの拠点**の整備

【他校への普及方策】

- ・ カリキュラム開発、多職種連携の円滑な運用フロー等に関する研修会の実施
- ・ 日本語指導カリキュラムのオープンソース化

【その他】

- ・ 地域連携コーディネーター、大学生や教員OB等による学習メンター、NPO法人等と連携し、**多層型学習支援プロジェクト**を展開

「ウェルビーイングな学びの場」
～余白の時間と学校外との連携～

実施体制

協力校	高志のあかり中学校 (令和9年4月開学) 上市高校、富山いずみ高校
主な連携機関 等	富山大学、富山県立大学、関係自治体、NPO法人等

目指す成果

- 生徒への**個別最適な学び**の提供と**余白時間**の創出
- **教育課程の柔軟化**やAI活用モデルの横展開
- 多様な背景を持つ生徒の社会的自立の実現
- 県全域の外国人生徒支援体制を底上げ

改革を先導しパイロットケースを創出する「**産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業**」の**改革先導拠点**（類型1：アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援）として、下記**2**校の申請を予定

（取組み内容は調整中）

① **富山商業高校**

（現時点で想定している取組み）

商業知識＋デジタル技術を駆使し、エッセンシャルワーク分野等（卸・小売・物流、交通、サービス業等）において、生産性向上や付加価値向上を生み出す人材育成を目指す

- ・企業等での現場体験、長期実習を実施
- ・協力校（**高岡商業**等）とも連携し、テーマ別課題解決型学習を展開

② **高岡工芸高校**

（現時点で想定している取組み）

地域に息づくクラフトマンシップの継承と先端技術の実装により、現場をリデザインし、新たな価値を生み出す「地域共創・未来変革エンジニア」の育成を目指す

- ・企業等と連携した現場実習等、実践的な学びを組み合わせたデュアルシステム教育の実施
- ・サーキュラーエコノミーを含む「ものづくり」など、県の産業施策とも連動したテーマ別プログラムの展開

中核となる3つの施策のポイントと思われること

- ・教育現場に大きく踏み込んだ、産業界（企業）、大学、地域等との具体的な連携による実践的な学びの活動
- ・AIやデジタル技術の駆使（施設設備の高度化を含む）
- ・生徒本位の横断的な取組み
学校や地域横断、分野横断（教育⇔他分野、教育内部（学校種等））
- ・生徒、保護者、学校関係者等の意識改革、高校の取組みの共有・理解醸成

方向性、中核となる3つの施策の具体化の検討にあたりご意見・アイデアをいただきたいこと

(例えば以下の事項)

- 探究活動の深化、実践活動との連環
 - これまでよりも一歩踏み込んだ高校生と企業・地域・大学等との連携・協働（ものづくり、建設・インフラ、交通、福祉・医療、農業、商業、観光等）の創出、既存の取組みの深掘り、高校×企業とのコラボレーションの広がり
 - 企業ニーズ、負担も考慮しつつ、単発的なことだけではなく、継続的な実践活動
 - キャリア教育～地域人材確保までの、大学等や企業等との連携
 - 高校教育との協働を支持・支援する企業や地域等による協働体制の構築
 - デジタル技術・機材もふんだんに活用したデジタル教育・人材育成の充実
 - 主体的な学びの推進、非認知能力、コンピテンシー（異質な人々から構成される集団で相互にかかわり合う力、道具を相互作用的に用いる力、自律的に行動する力）の向上
 - 多様なニーズに対応した教育機会の確保（外国人生徒、不登校対応等含む）
 - 小中、高校、大学など学校種を超えた取組み
 - 県民への高校教育や改革に関するわかりやすい情報発信
 - 教員、保護者、生徒等の意識改革
 - 生徒のウェルビーイング向上
- ・「こどもまんなか」の視点
 - ・教育現場の負担を軽減
 - ・生徒、学校、企業・地域等の三方よし

富山県高校教育改革実行計画の構成

高等学校教育改革実行計画の構成（国の手引きから）

1 計画の基本事項

- ・趣旨、位置づけ、期間、経緯（検討体制）
※既存の高校教育に関する計画や産業振興ビジョン等との内容の整合性や連携に留意
- ・計画期間は、3～5年程度

2 高校教育の現状と課題

- ・客観的なデータ（統計情報、アンケート・ヒアリング、これまで実施してきた高校改革の取組み・成果）
- ・地域別就業構造の推計、学科構成の状況、生徒数の減少に伴う影響、学校の適正規模・適正配置の課題等

3 高校改革の基本的な考え方と方向性

- ・基本理念、考え方、目指す高校の姿

4 高校改革の実現に向けて中核となる3つの施策等

- ・①専門高校の機能強化・高度化、②普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化、③地理的アクセス・多様な学びの確保
- ・改革先導拠点の取組み

5 その他の具体的施策

- ・教育課程の改革（単位制の柔軟化等）、学校の配置・規模の適正化、校務効率化、教員の働き方改革、人事配置・研修、入学者選抜の改善など
- ・生徒・保護者等県民への周知

6 計画の推進

- ・進捗の管理と評価（PDCA、継続的なモニタリング）、推進体制、数値目標、改革の工程表

(参考) 関連する既存の計画等

- ・「新時代とやまハイスクール構想」

[基本方針](#) (令和7年3月)

[実施方針](#) (令和8年1月)

[第1期設置方針\(案\)](#) (令和8年7月)

[再構築ガイドライン\(案\)](#) (令和8年7月)

- ・ [第3期富山県教育大綱](#) (第4期富山県教育振興基本計画) (令和8年3月)

- ・ [県立学校における働き方改革推進プラン](#) (令和8年2月)

- ・ [富山県学校教育情報化推進計画](#) (令和5年3月)

- ・ [富山県学校施設長寿命化計画](#) (平成30年5月)

- ・ [富山県総合計画](#) (令和7年12月)

- ・ [富山県人材確保・活躍パッケージ](#) (令和8年2月)

- ・ [富山県独自の労働需給シミュレーション](#) (令和8年3月)

- ・ [富山県地域産業成長プラン取りまとめ](#) (令和8年7月)

- ・ [2040年の就業構造推計\(改訂版\)](#) 経済産業省 (令和8年3月)

第1回（8月6日） 総論・方向性

第2回（9月予定） 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化／地理的アクセス・多様な学びの確保

第3回（10月予定） 専門高校の機能強化・高度化

第4回（12月予定） 総括・高校教育改革実行計画案

（令和9年1月予定） パブリックコメント

（令和9年3月予定） 総合教育会議

計画策定

(以下、参考資料)

計画案の策定

計画検討会

外部有識者 (教育・産業・地域等関係者、保護者、生徒等)

計画策定実務

ワーキンググループ

県教育委員会・知事部局

計画案の決定

総合教育会議

知事、教育長、教育委員

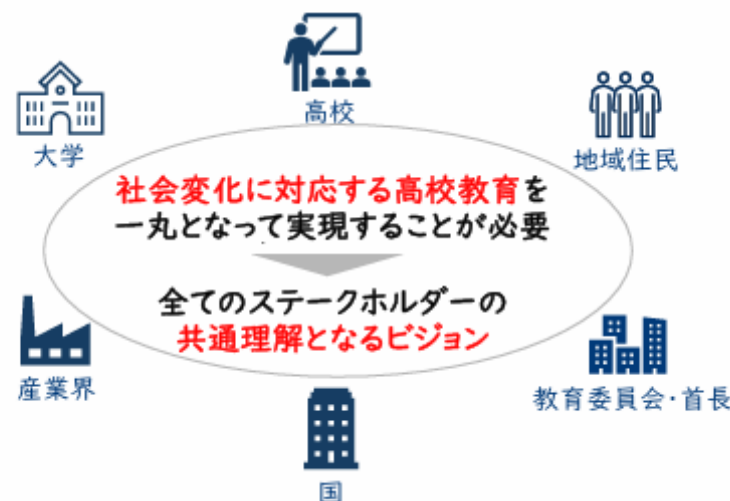
(教育委員会)	教育次長（高校教育改革充実強化所管） 教育次長（教育みらい室長） 教育みらい室 課長（高校教育充実強化担当） 参事・県立高校課長 参事・特別支援教育課長 参事・県立高校改革推進課長 参事・小中学校課長 課長（児童生徒支援担当） 課長（夜間中学校設置準備担当）	(座長)	(関係部局)
			商工労働部 商工企画課長、経営支援課長 労働政策課長、人材確保推進課長 経営管理部 学術振興課長 地方創生局 デジタル戦略課長、外国人共生社会推進課長 厚生部 厚生企画課長 農林水産部 農業経営課長、農業技術課長、森林政策課長 土木部 建設技術企画課長
教育企画課	参事・教育企画課長 課長（ICT教育推進担当）		
教職員課	教職員課長		
保健体育課	保健体育課長		
生涯学習・文化財課	課長（青少年・家庭成人教育担当）		

高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】 ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップ**が発生
(事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心**に応じた学びを生かした**自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**
→全ての高校生が**家庭の経済状況等**に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

- 学びの在り方の転換 (New Transformation)**
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、**「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保**し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
 - ✓ スクール・ミッション、**スクール・ポリシー**を踏まえた**教育活動の改善、公表**
 - ✓ **高校教育と一貫した大学教育改革**(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

- 最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence)**
- ✓ **探究・文理横断・実践的な学び**、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
→ **理数・文系的素養やAIを使いこなす力**を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感
 - ✓ 各高校の特色化・魅力化
→ 学科構成の見直し、**専門高校の機能強化・高度化**、グローバル人材の育成
→ **「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education)**
- ✓ **全国どこにいても多様で質の高い学び**を保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
(**地理的アクセスの確保**、都道府県の実情等に応じた**学校配置・規模の適正化**、小規模校を含む**遠隔授業**等の推進)
 - ✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上
 - ✓ **不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導**が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

国の
高校教育改革に関する
ブランドデザイン策定

都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

安定財源を確保した上で、
交付金等の新たな財政支援の
仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成
過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校(改革先導拠点)を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化
(アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)



(学校のイメージ)

地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
(文理の双方の素養を有する人材の育成等)



(学校のイメージ)

文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保



(学校のイメージ)

学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校:100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校:100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合:同程度

【多様な学びの確保関係】

- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

1 基本目標

- ・ 社会や生徒を取り巻く状況を踏まえ、令和20年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を次のとおりとする。
- ・ この基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を設置する「新時代とやまハイスクール構想」(以下「構想」という。)を進める。

県立高校の基本目標

新時代に適応し、 未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、
生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、
様々な人々と協働して社会参画できるよう、
個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、
生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、
「ウェルビーイング」の向上を図る。

全ての県立高校(全日制)を再構築し
新しい学校を開設する

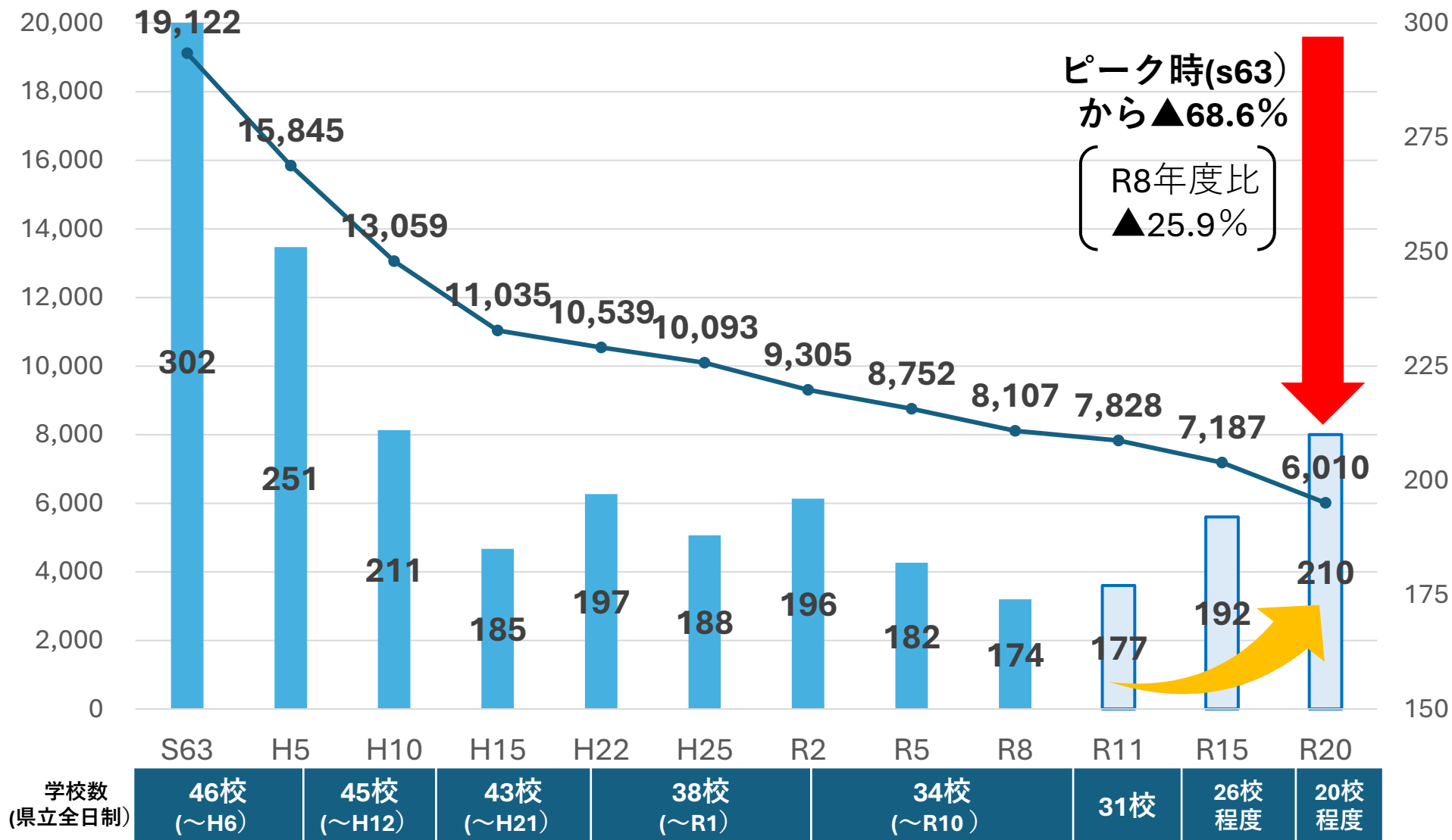
新時代とやま
ハイスクール構想

中学校卒業予定者数の推移

(参考)
新時代とやま
ハイスクール
構想

中学校卒業
予定者数

募集定員
(1学年平均)

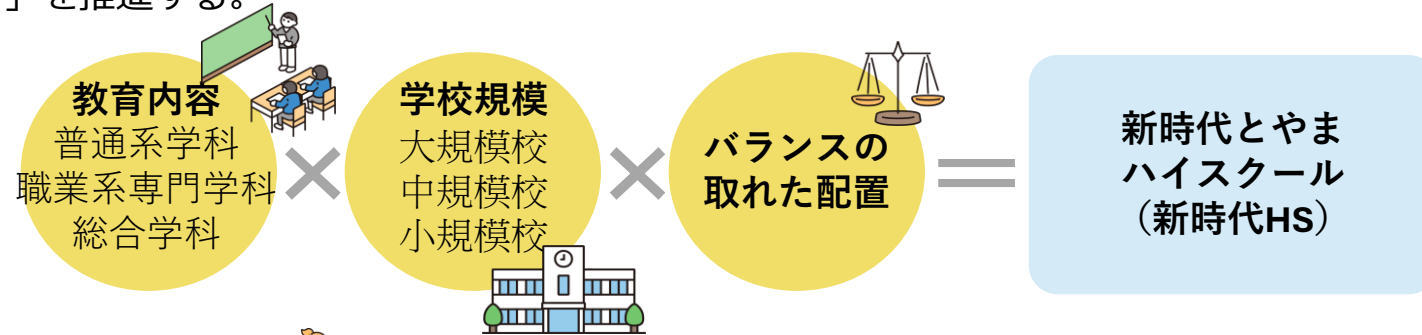


新時代とやま
ハイスクール構想

② 基本とする考え方

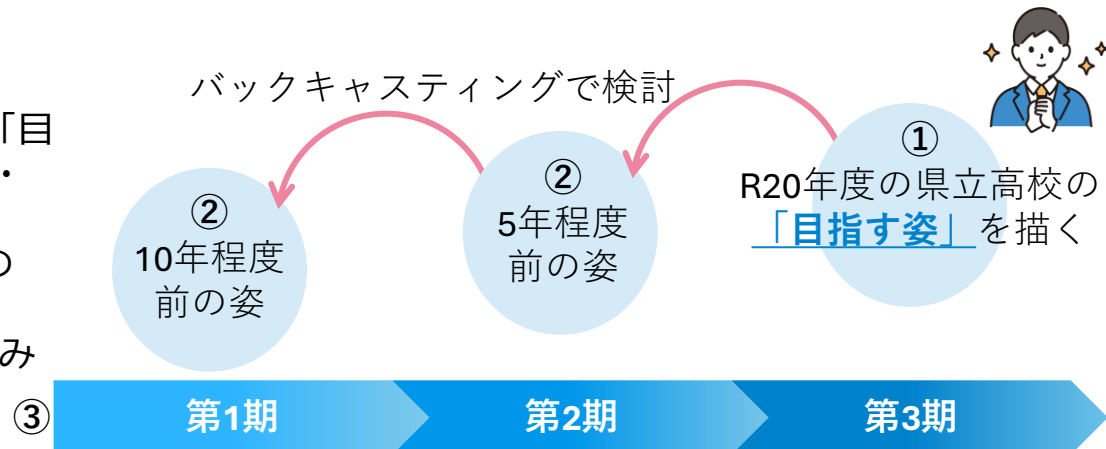
(1) 新時代とやまハイスクール（「新時代HS」）の設置

- ・新時代HSは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。
- ・少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色のある新時代HSを県内にバランスよく配置し、全ての生徒にとって、「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進する。



(2) 構想の進め方

- ① 将来(令和20年度)の県立高校の「目指す姿」(教育内容・学校規模・学校類型など)を描き、
- ② バックキャスティングで「各期の姿」を検討し、
- ③ 3期に分けて「再構築等」の取組みを推進していく。



（参考）
新時代とやま
ハイスクール
構想

グローバルハイスクール【県東部1校】



世界とつながりながら、思考し発信する力を磨く学校

身に着けられる
資質や能力

- ・地域と世界の課題を多面的に探究し、本質を見極める力
- ・多様な文化や価値観を尊重し、対話と協働を通して新たな価値を創造する力
- ・自らの考えを論理的に構築し、英語で世界へ発信する力

《取り組み例》

- 探究的手法による学び
- 英語表現力を高める学び
- 異文化理解につながる学び
- 英語実践力・発信力を育成する学び



未来探求ハイスクール（タイプ1「得意を生かせる学校」）【東西各1校】



得意を生かした専門的な学びを通して 未来を切り拓く力を育む学校

身に着けられる
資質や能力

- ・自らの目標に向かって、学び続ける姿勢
- ・専門分野の深い知識・技術・実践的能力
- ・「強み」を生かして社会をよりよくできる力

《取り組み例》

- 「専門分野×社会課題」
- 「専門分野×AI・データサイエンス」
- 外部人材（企業、大学等）の活用
- 「余白の時間」の創出



未来探求ハイスクール（タイプ2「なりたい自分を見つけることができる学校」）【東西各1校】



多様な学びを通じ「なりたい自分」を見つけ 未来を切り拓く力を育む学校

身に着けられる
資質や能力

- ・自分自身の興味関心や適性を理解し、進路目標を描くことができる力
- ・進路目標に向け、自分のペースで学習活動等に取り組むことができる力
- ・自分自身の個性を「強み」とし、共生社会をデザインできる力

《取り組み例》

- 「なりたい自分」を見つけるキャリア教育
- 「学習内容を選択できる」仕組み
- 多様な学習ニーズに応じた個別最適な学習環境
- 「余白の時間」の創出



(参考) 関係データ

県立高校（全日制）一般入学者選抜の志願倍率

	H7	H17	H27	R4	R5	R6	R7	R8
全学科	1.24	1.25	1.14	1.04	1.02	1.01	0.99	0.89

学科別の志願状況（令和8年度一般入学者選抜）

普通系	農業	水産	工業	商業	家庭	看護	福祉	総合
0.90	0.52	0.77	0.85	1.03	1.02	0.75	0.63	0.89

専門学科の定員割合（％） 令和7年度1学年定員（公立全日制）

	農業	水産	工業	商業	家庭	看護	福祉	情報	その他	計
富山県	2.5	1.0	16.2	10.6	2.0	0.7	0.5			33.5
全国	4.1	0.5	10.0	7.3	1.2	0.2	0.4	0.1	0.2	24.0

高等学校卒業者の大学（文・理）進学状況



(参考) 関係データ

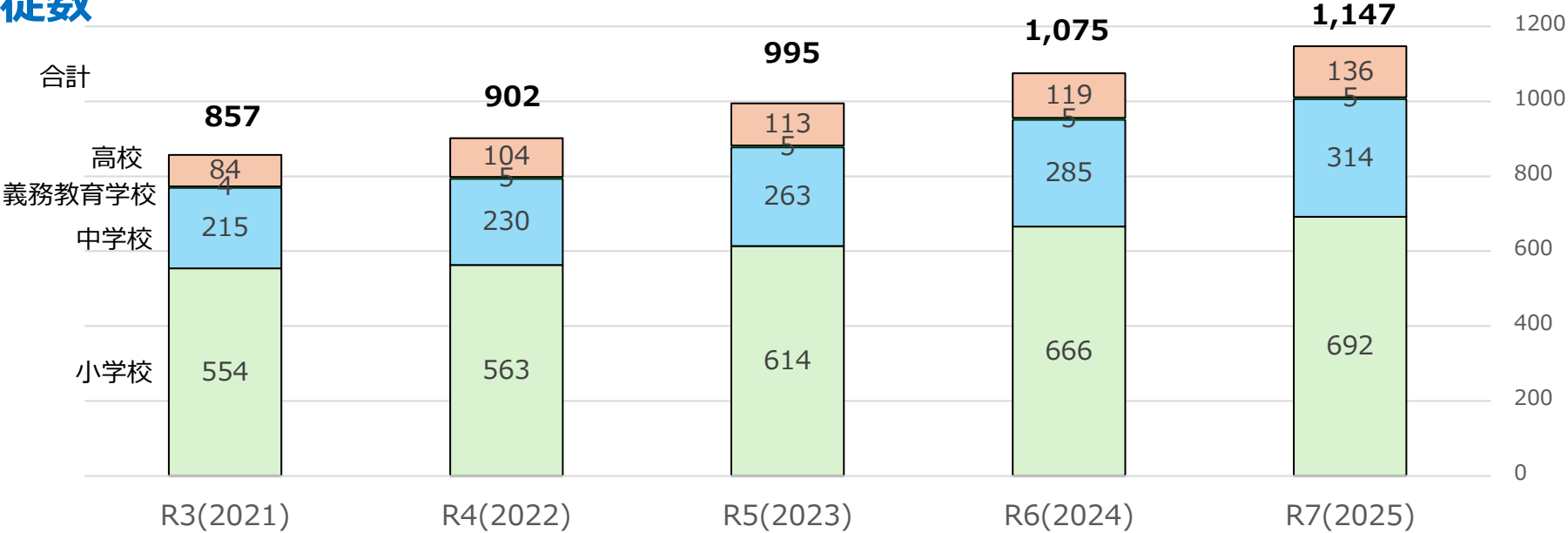
不登校児童・生徒数

※年間30日以上「不登校」
という理由で長期欠席した人数

			R2	R3	R4	R5	R6
小学校	県	人数	556	725	856	1,110	1,106
		1,000人あたり	11.4	15.1	18.2	24.0	24.3
	国	あたり	10.0	13.0	17.0	21.4	23.0
中学校	県	人数	899	1,112	1,336	1,531	1,518
		1,000人あたり	33.7	42.3	51.7	60.7	61.7
	国	あたり	40.9	50.0	59.8	67.1	67.9
高等学校	県	人数	410	419	483	614	558
		1,000人あたり	15.5	16.2	19.2	25.1	23.4
	国	あたり	13.9	16.9	20.4	23.5	23.3

(出典) 令和6年度児童生徒の問題
行動・不登校等生徒指導上の諸課題
に関する調査結果

外国人児童・生徒数



(出典) 学校基本調査

ベースラインシナリオ ～分野別まとめ～

出典：
「富山県独自の労働需給シミュレーションについて」
令和 8 年3月27日
労働需給シミュレーションプロジェクトチーム
(富山県立大学情報工学部 岩本教授 他)

2030年予測

所属産業	需給ギャップ(人)	割合(%)
製造業	-16,918	-12.36%
医療・福祉	-14,400	-17.61%
運輸業・郵便業	-5,308	-20.57%
建設業	-10,108	-22.43%
農林水産業	-3,352	-21.02%
公務	82	0.52%
電気・ガス・熱供給・水道業	-2,210	-36.69%
宿泊・飲食サービス業	-3,843	-14.17%
卸売・小売業	-9,812	-11.80%
教育・学習支援業	-4,570	-15.19%
金融・保険業	-138	-1.18%
情報通信業	537	5.37%
不動産業	-315	-6.10%
その他サービス業	10,824	23.25%
鉱業	-97	-47.09%

2040年予測

所属産業	需給ギャップ(人)	割合(%)
製造業	-31,213	-23.12%
医療・福祉	-23,432	-27.80%
運輸業・郵便業	-8,882	-33.57%
建設業	-14,305	-32.83%
農林水産業	-1,464	-11.01%
公務	-495	-3.25%
電気・ガス・熱供給・水道業	-7,834	-70.07%
宿泊・飲食サービス業	-4,096	-16.50%
卸売・小売業	-4,654	-6.53%
教育・学習支援業	-11,894	-33.63%
金融・保険業	-1,071	-9.57%
情報通信業	-753	-7.15%
不動産業	1,236	39.45%
その他サービス業	5,347	11.58%
鉱業	-81	-51.59%

基幹産業として製造業、生活維持サービスとして医療・福祉、建設、
運輸・郵便に注目すると、2040年では**20%を超える人手不足**が予想される
人手不足は即生活が成り立たなくなるわけではなく、**機会損失や**
サービス水準の低下として既に現れつつある

(参考) 現在の取組み例

企業（産業界）と高校との連携・協働

実施校等	概要
全域	社会へ羽ばたく17歳の挑戦：地域産業発見探訪（県内企業や産業観光地などで見学及び実技体験の実施）
全域	高校生オープンイノベーション事業：県立高校連携活動コーディネーターを配置、各校が企業等とスムーズに連携できるよう支援
全域	民間）ミラコン：工業系高校生が「ミラクルな未来」をテーマに、研究・試行錯誤を経た創作物や成果を発表するコンテスト
全域	民間）高校生ものづくりフェスタ：学科や部活動で研究・製作したものを展示
石動	小矢部青年会議所と、道の駅で扱う特産品を開発
新湊	「観光ビジネス」授業の一環で、和菓子屋と協力し食香バラを使った「かりんとう饅頭」の考案
新湊	生徒が情報スキルを地域住民に教えるパソコン教室を実施
高岡工芸	廃棄される瓦を使ったプランターの制作、福祉施設への寄贈
高岡工芸	JR氷見線越中中川駅の外壁デザイン
高岡工芸	生徒がパーソナリティを務めるラジオ番組、企業社長へのインタビュー
高岡工芸	同窓会、青井記念館美術館はぐくみ会主催による青井中美術展の開催
高岡商業	「商品開発と流通」の一環で、和菓子屋の協力により新菓子を開発
中央農業	飼育した和牛をJAの直売所で販売
中央農業	学校田で減農薬栽培をした中農エコ米の販売実習をスーパーで実施
中央農業	和菓子店からの指導を受け、校内の桜を使った桜餅を製作
中央農業	企業と協力し、中濃ソースを開発・販売実習を実施
中央農業	ドジョウやロボットを活用して育てたコメで作ったますずしを販売
中央農業	クレープ店による特別授業、コラボクレープの開発
中央農業	学校で栽培した野菜を使って米粉パンのラスクを開発

(参考) 現在の取り組み例

企業（産業界）と高校との連携・協働

実施校等	概要
砺波工業、高岡工芸	民間）高校生ものづくり応援フェス（砺波工業、高岡工芸によるものづくり応援イベント）
富山いずみ	和菓子職人との「富山えごま」を使った和菓子の開発
富山商業	販売実習「TOMI SHOP」の実施
富山北部	魚津水族館のLINE用スタンプの作成
富山北部	花を贈る日をPRするポートルムのラッピング車両をデザイン
滑川	富山地鉄沿線の活性化に向けた観光リーフレットの作成
滑川	模擬株式会社によるサービスエリアでの考案商品（深層水塩ラーメンなど）販売
滑川	富山地鉄の魅力発信のため、鉄道車両と滑川市のキャラクターを組み合わせデザインしたアクリルキーホルダーの製作、販売
南砺福野	企業の指導も受け、オリジナルみそを考案、年末の歳の大市で販売
入善	NPO法人、社会福祉法人、JA、商工会による「農商校福」連携でトウガラシを栽培、販売
氷見	氷見産キウイを活用した焼き肉のたれを考案、商品化し、ひみ番屋街で販売
氷見	ひみ番屋街の店舗とコラボレーションし、特産のみかんを使ったプリンを開発
氷見	イノシシの肉を使ったハンバーガー等を考案
氷見	ひみ番屋街の店舗とコラボレーションし、駆除ウニを使用したプリンを共同開発
氷見	下着メーカーと共同開発し、駆除ウニの殻を繊維に配合したパンツを開発
氷見	未利用魚を使ったさつま揚げを開発、氷見あいやまガーデンで販売
桜井	KOKOくろべとの商品開発「黒部産野菜パフェ」「四重奏タルト」
桜井	富山刑務所との献立開発

(参考) 現在の取り組み例

高等教育機関や専門学校等と高校との連携・協働

実施校等	概要
全域	社会へ羽ばたく17歳の挑戦：アカデミック・インターンシップ（県内大学等で、教授や学生等から指導を受け、実験・実習・演習を体験）
富山	R⑦次世代創出PBL推進事業：総合的な探究の時間等で、富山大学、県、地元企業等と連携し、教科横断的な探究活動を実施
富山中部	R⑦次世代創出PBL推進事業：教科横断的、総合的な学びのプログラムの開発
富山北部	R⑦次世代創出PBL推進事業：富山大学や県立大学、NPO法人、ファミリーパーク等と連携し、里山整備や地域の魅力づくりに高校生の視点で課題を発見、解決策を提案
富山商業	R⑦次世代創出PBL推進事業：大学、産業界、地域と連携した「デザイン思考」によるプロスポーツチームとの連携
高岡	R⑦次世代創出PBL推進事業：富山大学等の教授による指導を受け、専門的な研究を实践
高岡南	R⑦次世代創出PBL推進事業：地元の大学や自治体、企業等と連携した総合的な探究の時間、理数探究での発展的な探究活動の推進
入善	R⑦次世代創出PBL推進事業：大学や研究機関、自治体、地元の農家等と連携した探究活動（大学教授等専門家の講義・評価）
中央農業	R⑦次世代創出PBL推進事業：SDG s の観点を取り入れた次世代型最先端農業技術の開発において、大学から講師を招き特別授業を実施

地域（活動）と高校との連携・協働

実施校等	概要
氷見	株式会社HIMIco-bridgeを設立、デジタル無人店舗を運営（産学官連携の無人販売店運営コンソーシアム（氷見市、地元産業界、大学等）
入善	地元農家と連携、教育と職業訓練を同時に進める「入高式デュアルシステム型長期委託実習」を実施（入善ジャンボ西瓜の角形栽培、トウガラシ6次産業化等）

(参考) 現在の取組み例

AI・デジタル技術の活用

実施校等	概要
富山南	生成AIパイロット校事業：生成AIの活用による個別指導補助（英語検定の一次添削や面接質問の生成、過去の指導事例の構造化等）、学校事務（資料作成等）の効率化
呉羽	生成AIパイロット校事業：総合的な探究の時間での生成AIの活用、外部対応（依頼文、打合せシート作成等）のマニュアル化

高度なデジタル施設・設備

実施校等	概要
富山	R⑧DXハイスクール：STEAM教室「MAROOM」を活用した発展的研究（ハイスペックPCや3Dプリンター、レーザーカッターを用いて、思考を具体化・具現化して仮説を実証
大門	R⑧DXハイスクール：創造型デジタルスペースの創設（探究ラボに高性能PC、3Dプリンタ、大型ディスプレイ、XRゴーグル、脳波キットを導入）、高度なソフトウェアを用いたプログラミング等
入善	R⑧DXハイスクール：3DプリンタやハイスペックPCを活用したデジタルものづくり、人型ロボットPepperの校内常設
魚津工業	R⑧DXハイスクール：プログラミングへのAI活用、3D CADと3Dプリンタ・レーザ加工機等の利用
砺波工業	R⑧DXハイスクール：デジタルものづくりスペースの設置（3Dプリンターやレーザー加工機、ハイスペックPC等）、電子黒板やICT環境を整備した学習スペース

(参考) 現在の取り組み例

特色ある探究活動

実施校等	概要
全域	とやま探究フォーラム：学校での探究的な活動の成果を発表（ポスターセッション、プレゼン）、生徒交流会

文理融合的な取り組み

実施校等	概要
全域	学校設定科目：SS探究Ⅱ（学年で1つの課題を設定し、小グループ単位で協働的・多面的に取り組み、科学的手法を用いて解決策を提案
富山中部	教科横断型授業（中部アカデミックス）美術×科学、英語×世界史など複数の教科を融合させ、多角的な視点から事象を捉える探究力を養う

外部人材の活用

実施校等	概要
氷見	地域協働学習「未来講座HIMI学」（生徒の活動を支援する地域伴走者、学校と地域をつなぐコーディネーター）

(参考) 現在の取組み例

不登校・外国人生徒対策

実施校等	概要
定時制・通信制 4 校	通級による指導
全域	外国出身の中学生と保護者向け等向けの高校進学ガイダンス
全域	高校入学者選抜での外国人特別措置（問題へのふりがな）

小・中学校との連携

実施校等	概要
富山中部	サイエンスアカデミーの実施（理科や算数・数学の発展的な内容を在校生が小中学生に指導）
富山商業	14歳の挑戦を控えた中学生に在校生がビジネスマナーを教える